

エマージング債券市場の相場環境について

今回の東北地方太平洋沖地震において、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く復興されますことを、心よりお祈り申し上げます。

<政情不安を抱えるも堅調に推移するエマージング債券>

2月のエマージング債券市場は上昇しました。レバノンから始まった反政府デモの流れが、チュニジアやエジプト、更には中東全域にまで広がり、政治的緊張が高まる中、産油国の多い中東周辺諸国における反政府デモの拡大は、原油価格の深刻な上昇をもたらしました。こうした国々の債券は値を下げましたが、これらの国のウェイトは相対的に小さく影響は比較的小さいと言えます。一方、原油価格の上昇を受けてロシア、カザフスタン、ベネズエラが良好なパフォーマンスとなりました。石油輸出国の混乱による供給懸念が高まったことが、相対的に政情不安の小さい資源国にとって恩恵となりました。また、これらの国の株式市場や通貨の下落と比べると、債券価格の下落幅が限定的であったこともあり、エマージング債券の相対的魅力が際立ち全体では上昇しました。

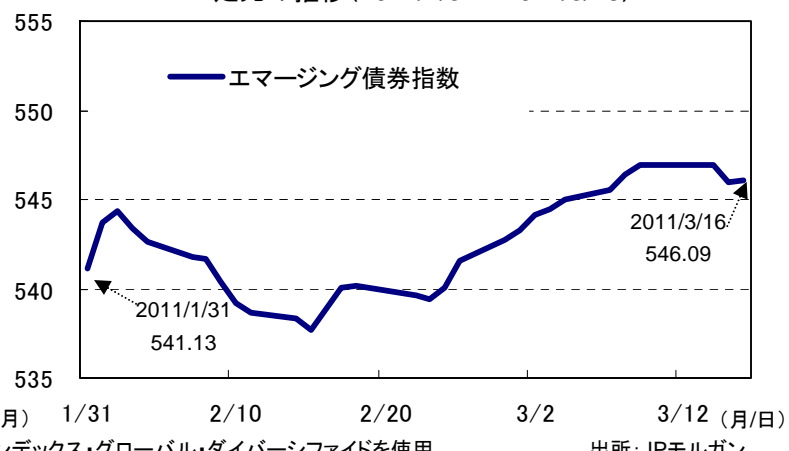
足元日本の現在の状況に世界のマーケットも反応してはいるものの、世界的にリスク資産全般からの逃避的な動きが出ているわけではなく、一時的にエマージング債券市場も若干下落しましたが相対的に影響は小さくエマージング市場は日本の震災後もほぼ横ばいの動きとなっています。

<エマージング債券市場の推移>

<2010年初からの推移(2010/1/4~2011/3/16)>



<足元の推移(2011/1/31~2011/3/16)>



※エマージング債券指数は、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ダイバーシファイドを使用

出所:JPモルガン

<足元では各通貨に対し円が急騰>

3月17日、円は対米ドルで一時76円台と約16年振りに過去最高値を更新しました。米ドルだけでなく各通貨に対して円は急騰しています。対豪ドルでは一時74円台、対ユーロでは一時106円台、対ブラジルレアルでは一時45円台、等何れも大幅に円高が進みました。足元では日本の原子力発電所の問題が、先行きの不透明感を強めている状況で、局所的なリスク回避的な動きが強まり、金利が低い通貨である円を売って金利が高い通貨を買い、その金利差を受け取ることを目的とした取引(いわゆるキャリー取引)に一部解消(外貨売り円買い)の動きが出ている影響で、各通貨に対し円高が進んだと思われます。また、日本の保険会社などが、投資している外貨資産を売却して円を調達するのではないかという思惑も出ています。さらに、ヘッジファンド等の投機的な資金が円買いを進めている影響も考えられます。

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
 ■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

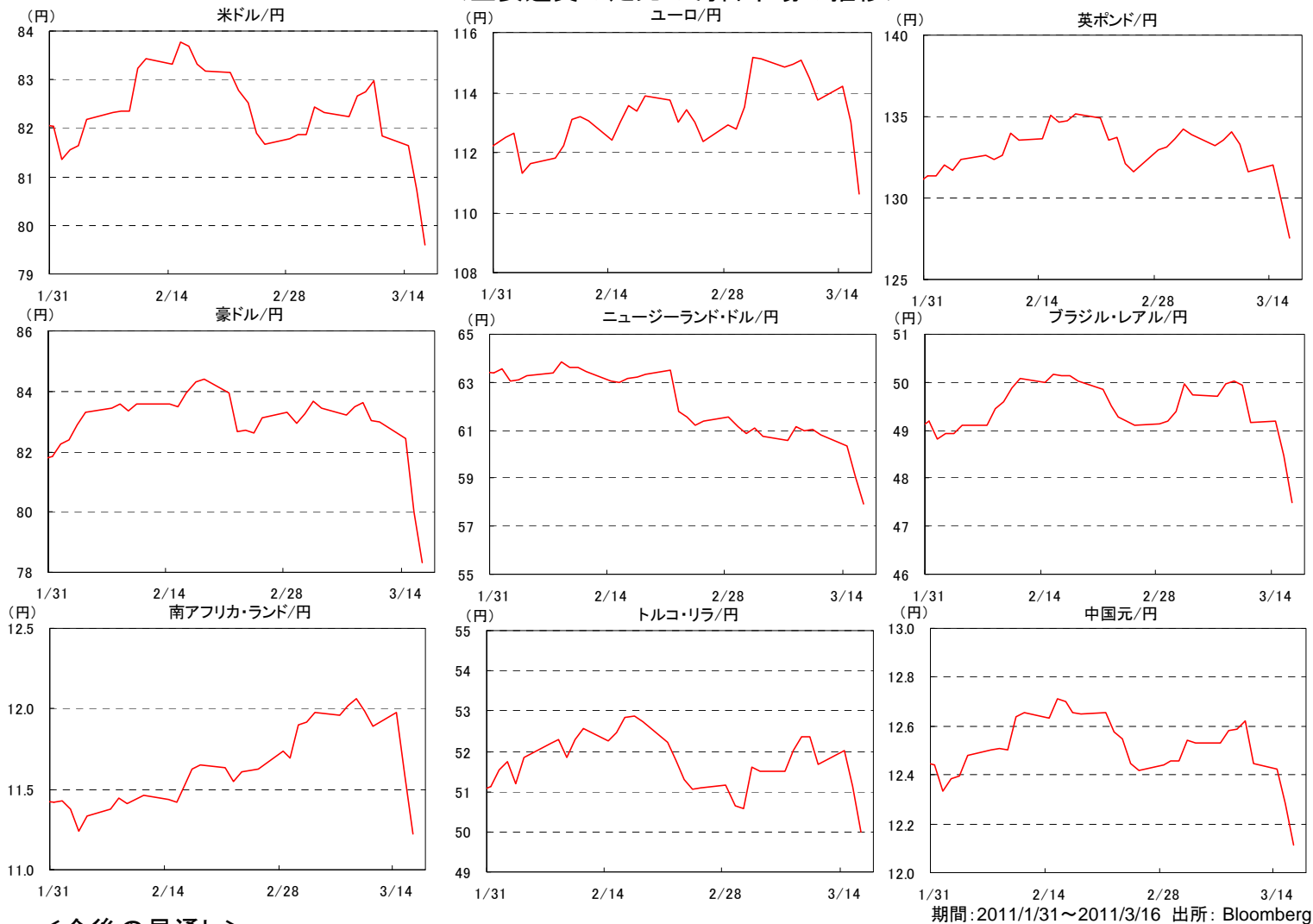


大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
 加入協会 (社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

<主要通貨の足元の為替市場の推移>



<今後の見通し>

今後のエマージング債券の見通しとしましては、欧米を始めとした先進国の財政不安や米国の長期金利の急激な上昇、インフレ懸念、また中東・北アフリカ諸国における政治リスクはあるものの、この先も投資家のエマージング債券に対する需要は依然として強く、新興国への資金流入が続くと見ております。現時点では日本の震災の影響度合いを測ることは困難な状況ですが、世界的な景気後退を引き起こす可能性は低いと考えています。新興国は、多くの債務を抱える先進国対比では、相対的に健全な財政収支や経常収支に反映される、良好なファンダメンタルズと潜在的な経済成長力を持っており、プライマリー市場の新規発行ペースも安定しています。その背景には、中間層の台頭や生活の質の向上ニーズに基づく消費の増加、インフラの拡充といった内需拡大、国によっては豊富な天然資源という追い風があります。

今後も、短期的なボラティリティはあるものの、中長期的には格上げが続く相対的な上昇トレンドを背景に、エマージング債券への資金流入が続き、債券価格を下支えすると思われれます。また為替相場は、現在の円高は一時的なものと考えられ、市場が落ち着きを取り戻せば再び緩やかな円安へ向かうと思われれます。

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.20750%（但し、最低 2,625 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を当社との相対取引によりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会：日本証券業協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会、社団法人 金融先物取引業協会